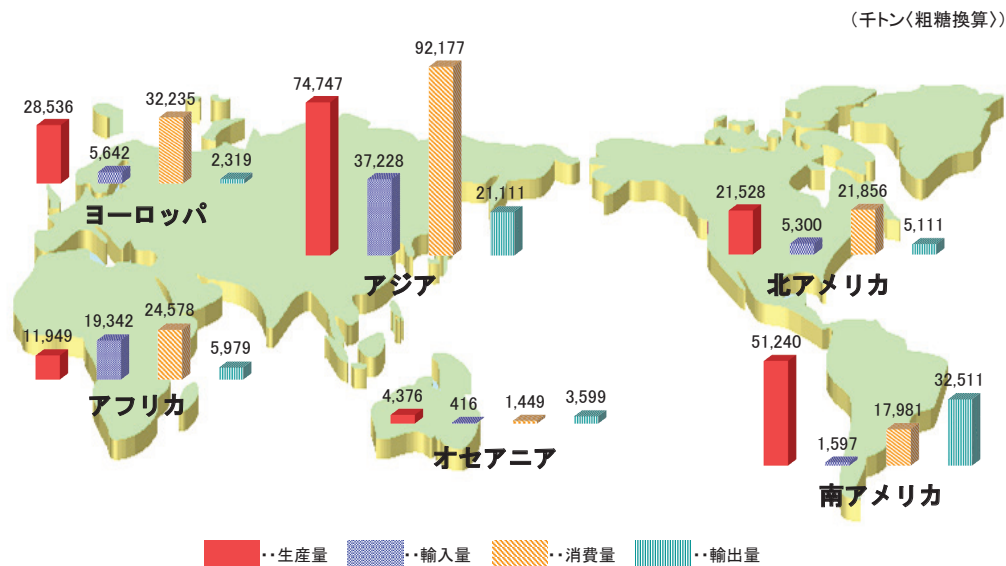


砂糖の国際需給

調査情報部 高田 勇一、峯岸 啓之

1. 世界の砂糖需給（2023年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2022/23年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2023」
注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1992/93	43,275	110,780	28,551	109,895	29,700	43,011	39.1
1997/98	53,920	126,205	35,557	120,805	39,806	55,071	45.6
2002/03	60,687	149,947	42,690	140,189	45,359	67,776	48.3
2007/08	62,150	166,772	45,454	158,489	48,802	67,085	42.3
2012/13	53,771	185,867	60,712	173,346	63,294	63,710	36.8
2017/18	68,310	195,571	66,162	180,872	68,130	81,041	44.8
2018/19	81,041	186,654	61,286	182,967	61,421	84,592	46.2
2019/20	84,592	181,553	69,368	182,214	71,612	81,688	44.8
2020/21	81,688	181,818	66,765	184,713	68,028	77,530	42.0
2021/22	77,530	186,459	69,171	187,844	70,552	74,764	39.8
2022/23 (2022年12月予測)	74,019	195,124	67,679	186,824	72,322	77,676	41.6
2022/23 (2023年3月予測)	74,764	192,376	69,524	190,278	70,630	75,756	39.8

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, March 2023」
注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
注2：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。
注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。
注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

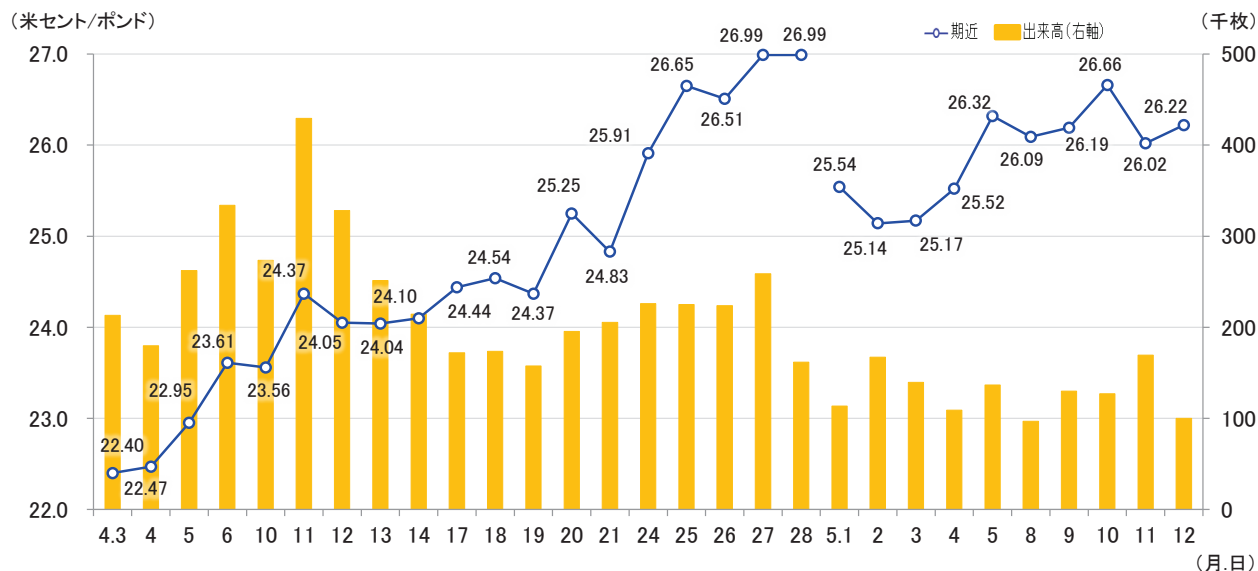
「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2023年7月号の掲載予定となります。直近の内容は2023年4月号をご参照ください。
「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002896.html
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002897.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（4/3～5/12）

～引き続き世界的な供給ひっ迫の見通しから、26セント後半まで上昇～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：4月は期近5月限、5月は7月限の値。

2023年4月のニューヨーク粗糖先物相場（5月^{がつ}限）の推移を見ると、3日は、原油高も相まって引き続き上昇し、1ポンド当たり22.40セント（注1）と高値をつけた。5日は、インド製糖協会（ISMA）が2022/23年度の10月から翌3月中旬の同国の砂糖生産量を下方修正（前年度比1.1%減から3.3%減）したことから、同22.95セントと急騰し、6日は、砂糖の減産見通しを理由に輸出枠拡大の可能性は低いとするインド政府の発言が引き金となり、同23.61セントとさらに価格を押し上げる結果となった。10日は、ドル高（注2）によりロングポジションの利益確定のための売りが進んだことから、同23.56セントと値を下げたが、11日には再び上昇し、同24.37セントをつけた。12日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が同国の22/23年度の砂糖生産量を前年度比5.2%増と発表したことから、同24.05セントと下落した。13日以降は、

続く世界的な供給のひっ迫の見通しが下支えとなり上昇し、18日は、同24.54セントをつけた。19日は、原油安（注3）の流れを受け、同24.37セントと値を下げた。20日は、ISMAがインドの22/23年度の砂糖生産量を前回報告からさらに下方修正（前年度比5.4%減）したことから、同25.25セントと値を上げた。21日は、収穫期のブラジルで乾燥気候が予測されたことが好材料となり、同24.83セントと下落した。その後は、5月限の納会を前にしたショートポジションをカバーするための買い戻し（注4）が入ったことなどから急騰し、25日は26セント台を突破し、同26.65セントをつけた。26日は、原油安により、同26.51セントと下落したものの、27日以降は、再び5月限の利益確定のための買い戻しやインド政府が砂糖の輸出枠拡大の可能性を改めて否定したことなどから、28日は、同26.99セントと11年ぶりの高値を記録して納会した。

7月限に代わった5月1日は、5月限の流れを引きずり、同25.54セントをつけた。2日は、ブラジル国家食糧供給公社が同国の22/23年度の砂糖生産量が前年度比4.7%増となり、過去2番目となる見込みと報告したことから、同25.14セントと値を落とした。3日以降は、レアル高や国際砂糖機関が22/23年度の余剰在庫量を下方修正したことなどから上昇し、5日は、同26.32セントと高値をつけたものの、8日は、ドル高により、同26.09セントと値を下げた。9日以降は、原油高やドル安などにより上昇し、10日は、同26.66セントと高値をつけた。11日は、UNICAがブラジルのサトウキビの順調な収穫を受け、4月までの砂糖生産量が前年同期比43.7%増と報告したことから、同26.02セントと下落した。12日は、米国海洋大気庁が8-10月期のエルニーニョ現象の発生可能性を75%から94%に引き上げたことから、主産地での天候被害を懸念し、同26.22セントと値を上げた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

(注3) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注4) 売買差益を狙い、将来の値下がり期待して売りの持ち高を取っていた金融資産を、決済のために買い戻すこと。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向(2023年5月時点予測)

ブラジル

2023/24年度(4月~翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：852万ha(前年度比0.1%増)

生産量：6億5150万トン(同7.5%増)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量：4338万トン(同8.9%増)

輸出量：3282万トン(同12.1%増)

増産見込みやインド産の輸出抑制などを背景に、2023/24年度の輸出量はかなり大きく増加する見込み

2023/24年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、大豆やトウモロコシなどの競合作物の影響を受ける一方、世界的な砂糖価格の高騰や供給不足の懸念により増産意欲が高まったことで相殺し、852万ヘクタール(前年度比0.1%増)と引き続き横ばいで推移すると見込まれる(表2)。サトウキ

ビ生産量は、主産地の中南部地域が降雨に恵まれサトウキビの生育に良好な条件が続いたことなどから、6億5150万トン(同7.5%増)とかなりの程度増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、4月後半の降雨によりサトウキビの集荷の一部で遅れが見られたものの、砂糖価格の上昇などを背景に、4338万トン(同8.9%増)とかなりの程度増加すると見込まれる。輸出量は、インドの輸出枠の拡大の可能性は低いとする報道など

を背景に、3282万トン（同12.1%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

ガソリンのエタノール混合率の引き上げを検討

ブラジルの鉱山エネルギー省のシルベイラ大臣は4月28日、ガソリンのエタノール混合率を現行の27%から30%に引き上げる検討部会の設置を明らかにした。

同大臣は、砂糖・エタノール業界のイベントで、温室効果ガスの排出削減は次世代エネルギーへの転換に貢献すると発言した上で、混合率引き上げの可能性は予測可能でかつ透明性の高いものでなければならず、今後も継続的に意見交換を行うとした。ま

た、アルクミン副大統領も報道機関に対し、エタノール混合率の増加はガソリン輸入の減少につながり、わが国のエネルギー安全保障に貢献するとし、同国におけるエタノール利用の加速を視野に入れた発言を行った。

サトウキビとトウモロコシから生産されるエタノールは、ガソリンに比べてCO₂排出量が最大で9割削減されるとされ、同国ではエタノール利用により過去20年間で、約6億2000万トンのCO₂を削減したと試算されている。そのため、同国におけるエタノール利用は、SDGsへの取り組みのモデルケースとして、世界的に注目を集めている。

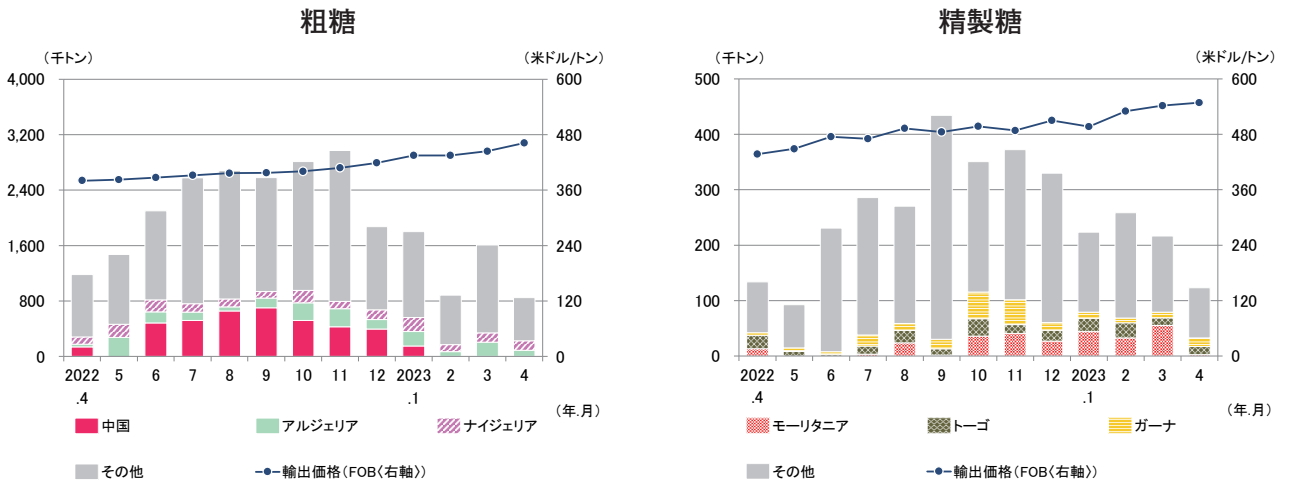
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度		2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (4月予測)	2023/24 (5月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積		8,651	8,679	8,508	8,517	8,517	0.1%
サトウキビ生産量		657,432	576,707	605,776	649,500	651,500	7.5%
砂糖	生産量	44,642	37,620	39,850	43,190	43,380	8.9%
	輸入量	6	4	2	3	3	50.0%
	消費量	10,916	10,718	10,557	10,715	10,715	1.5%
	輸出量	34,042	27,088	29,292	32,635	32,824	12.1%
	期末在庫量	3,468	3,286	3,290	3,135	3,133	▲ 4.7%
	期末在庫率	7.7	8.7	8.3	7.2	7.2	1.1ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2023」
注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

インド

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：557万ha（前年度比5.4%増）
生産量：4億6041万トン（同2.4%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3535万トン（同8.3%減）
輸出量：763万トン（同38.8%減）

2022/23年度の減産見込みを受け、輸出量は大幅に減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、主産地であるウッタル・プラデーシュ州やタミルナードゥ州における作付面積の拡大などから、557万ヘクタール（前年度比5.4%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。サトウキビ生産量は、ウッタル・プラデーシュ州やカルナータカ州で増産が見込まれるものの、マハラシュトラ州での天候不順による減産が影響し、4億6041万トン（同2.4%減）とわずかに減少すると見込まれる。

一方で、砂糖生産量は、天候不順による早期出穂によりCCS^{（注）}が低下したことなどから、3535万トン（同8.3%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。インドの全国協同組合砂糖工場連盟によると、4月末時点で9割近くの工場（531工場のうち464工場）が製造を終了し、5月末にはすべての工場での製造が終了する見込みとしている。輸出量は、減産見込みに加え、同国政府が昨年11月上旬に22/23年度の砂糖輸出枠を600万トンと発表したもの

の、今後の輸出枠拡大の可能性が低いことを踏まえ763万トン（同38.8%減）と大幅な減少が予想される。

（注）可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

国内選挙を見据え、砂糖価格安定に向けて、輸出抑制の恐れ

4月28日付け現地報道によると、「2022/23年度のインドの砂糖生産量は、昨年9月から12月の収穫期における天候不順によりサトウキビの収穫作業が停滞したことで、3270万トン（前年度比8.9%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。このため、輸出拡大による国内の砂糖価格の上昇を懸念する政府は、今後、砂糖輸出の禁止に動き出す可能性が高い」としている。

現在、同国では国内の年間需要に相当する2750万トンの在庫が確保されているとみられるが、政府は年内の州議会選と年明けの連邦議会下院選を前

表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (4月予測)	2022/23 (5月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積		4,534	4,849	5,280	5,565	5,565	5.4%
サトウキビ生産量		371,430	410,545	471,878	454,735	460,411	▲ 2.4%
砂糖	生産量	29,544	33,642	38,559	35,539	35,345	▲ 8.3%
	輸入量	1,686	1,037	428	655	655	53.2%
	消費量	27,324	28,679	29,376	29,916	29,916	1.8%
	輸出量	8,254	8,538	12,468	7,742	7,634	▲ 38.8%
	期末在庫量	10,509	7,971	5,113	3,650	3,564	▲ 30.3%
	期末在庫率	29.5	21.4	12.2	9.7	9.5	2.7ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

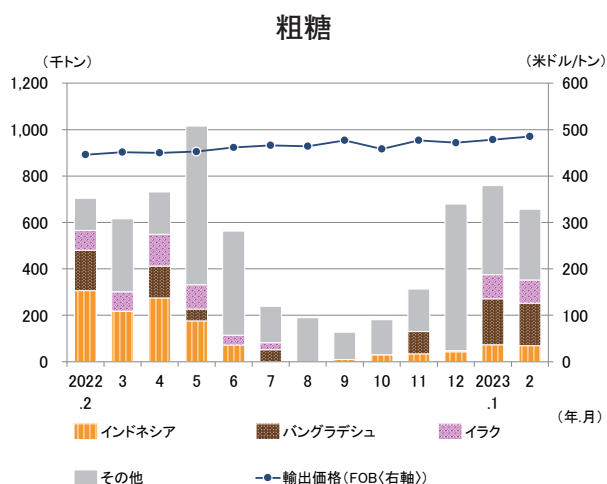
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

に、砂糖輸出を禁止することで、国内在庫確保の姿勢を示すとともに、国内価格の鎮静化を図る狙いがあると考えられている。

21/22年度は、期中に輸出を1000万トンから

1120万トンに拡大したものの、今年度の輸出枠拡大は厳しいとされ、22/23年度は砂糖輸出枠600万トンに対し、すでに約400万トンが輸出されたと見込まれている。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



中国

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：113万ha（前年度比0.8%増）
 生産量：6424万トン（同10.9%減）

【てん菜】

収穫面積：16万ha（同7.7%増）
 生産量：859万トン（同21.5%増）

【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：973万トン（同5.8%減）
 輸入量：624万トン（同10.3%減）

2022/23年度の砂糖生産量は1000万トンを割り込み、輸入量も引き続き減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、113万ヘクタール（前年度比0.8%増）とわずかに増加すると見込まれる（表4）。サトウキビ生産量は、主産地の広西チワン族自治区で昨年7月から11月の間で続いた干ばつの影響や病虫害の発生により、6424万トン（同10.9%減）と落ち込み、7000万トンを割ると予想される。中国気象局によると、広西チワン族自治区では2月に再び

干ばつに見舞われたとした報告もあり、春植えの生育への影響も懸念される。一方で、同年度のてん菜の収穫面積は、16万ヘクタール（同7.7%増）とかなりの程度の増加が見込まれる。これによりてん菜生産量は、順調な生育を見込み、859万トン（同21.5%増）と大幅に増加すると予想される。

砂糖生産量は、サトウキビの減産予測から、973万トン（同5.8%減）とやや減少し、1000万トンを下回ると見込まれる。輸入量は、これまで国内生産の不足分を上回る量が輸入され、国内在庫が積み

増しされてきたことから減少見通しが続いている。
22/23年度も、国内での砂糖生産が減少予測とな
っているものの、世界的な砂糖供給のひっ迫懸念を

理由に、624万トン（同10.3%減）と前月予測か
らかなりの程度減少する見込みである。

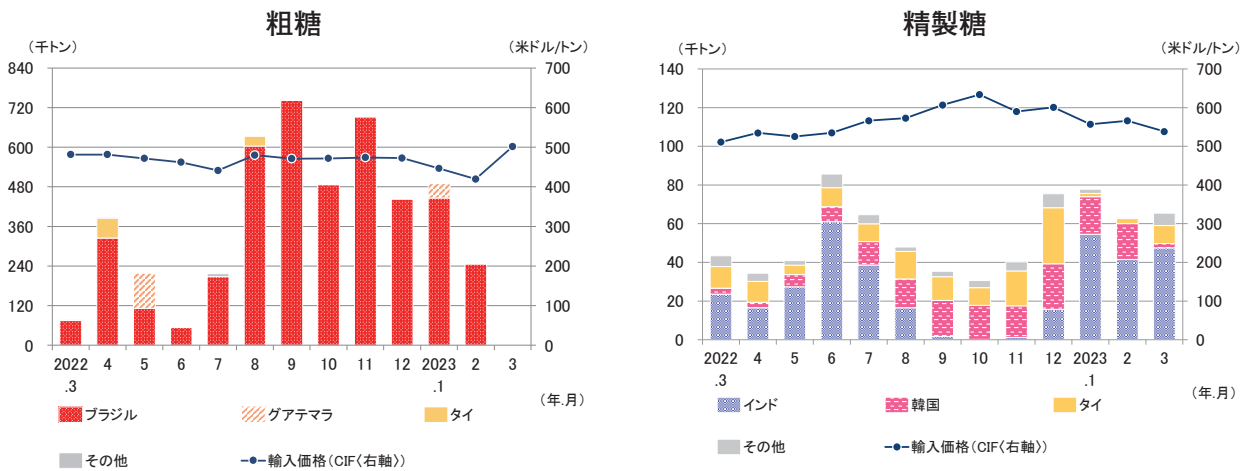
表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度		2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (4月予測)	2022/23 (5月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積		1,176	1,157	1,119	1,131	1,128	0.8%
サトウキビ生産量		73,715	72,441	72,136	66,025	64,244	▲ 10.9%
てん菜収穫面積		213	231	144	146	155	7.7%
てん菜生産量		10,900	12,330	7,070	8,519	8,586	21.5%
砂糖	生産量	11,258	11,530	10,334	9,869	9,731	▲ 5.8%
	輸入量	6,754	8,198	6,960	6,900	6,243	▲ 10.3%
	消費量	16,308	16,740	16,524	16,848	16,848	2.0%
	輸出量	192	134	172	178	183	6.1%
	期末在庫量	12,872	15,726	16,323	16,049	15,266	▲ 6.5%
	期末在庫率	78.0	93.2	97.8	94.3	89.6	8.1ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2023」
注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：140万ha（前年度比4.0%減）

生産量：9914万トン（同11.0%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1571万トン（同9.1%減）

輸出量：97万トン（同25.9%減）

2022/23年度の輸出量は、100万トン割れの大幅減少見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、ロシアによるウクライナ侵攻の影響により、世界的な規模で深刻な食糧不足や価格高騰への懸念が広がる中、収益性が高く価格が高騰しているトウモロコシなどの穀物への転作が進んだことなどから、140万ヘクタール（前年度比4.0%減）とやや減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、昨夏の記録的な熱波や干ばつの影響のほか、肥料価格高騰による施肥の減少やEU域内でのネオニコチノイド系農薬の緊急的使用の禁止などから収量が平年を下回るものと予測され、9914万トン（同11.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

砂糖生産量は、フランスなどでエタノールへの仕向量が減少したものの、てん菜の減産のほか、干ばつなどの影響を受けたてん菜が12月中旬の急激な冷え込みと霜により含糖量が一層低下したことや、一部のEU加盟国での収穫作業の遅れなどから、1571万トン（同9.1%減）とかなりの程度減少すると予想される。輸出量は、砂糖の減産などを背景に前回予測から下方修正され、97万トン（同25.9%減）と大幅に減少し、100万トンを割ると見込まれる（注）。

（注）詳細については、2023年5月11日付海外情報「欧州委員会、てん菜および砂糖の短期的需給見通しを公表（EU）」https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003509.htmlを参照されたい。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

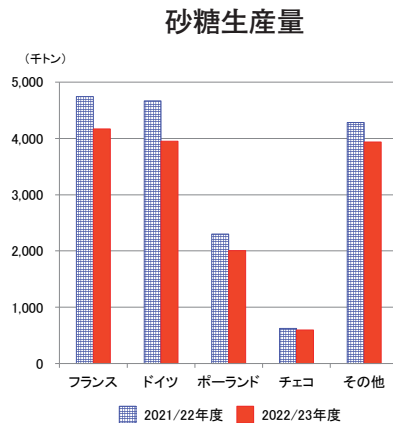
年度		2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (4月予測)	2022/23 (5月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積		1,517	1,474	1,454	1,397	1,396	▲ 4.0%
てん菜生産量		110,105	98,520	111,395	99,180	99,141	▲ 11.0%
砂糖	生産量	16,971	15,123	17,283	15,694	15,709	▲ 9.1%
	輸入量	2,230	1,888	2,132	2,707	2,669	25.1%
	消費量	17,014	16,766	17,788	17,555	17,680	▲ 0.6%
	輸出量	1,436	1,262	1,312	1,005	973	▲ 25.9%
	期末在庫量	2,348	1,332	1,647	1,486	1,372	▲ 16.7%
	期末在庫率	12.7	7.4	8.6	8.0	7.4	1.3 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

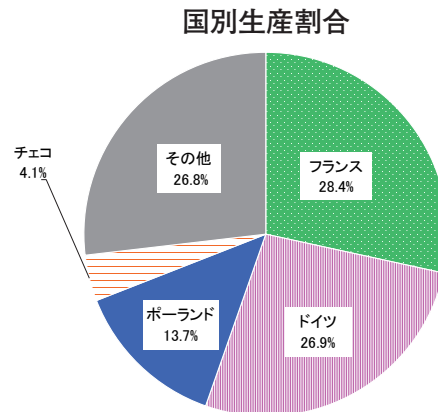
(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し (2022/23年度) (2023年4月時点)



資料：欧州委員会

注1：精製糖換算

注2：2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度は予測値。



資料：欧州委員会

4. 日本の主要輸入先の動向 (2023年5月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2022年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が90.7%（前年比4.1ポイント増）、タイが9.3%（同4.1ポイント減）と、両国が大勢を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪 州

2023/24年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比1.7%増）

生産量：3145万トン（同3.5%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：441万トン（同4.3%増）

輸出量：340万トン（同10.6%増）

2023/24年度の輸出量は、砂糖の増産を背景にかなりの程度増加する見込み

2023/24年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比1.7%増）とわずかな増加が見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、クイーンズランド州南部などで乾燥した気候が続いたものの、育成期間中にその他地域の多くで降雨があったことなどから、3145万トン（同3.5%減）と前回予測から上方修正されたものの、前年度からはやや減少が予想される。

砂糖生産量は、441万トン（同4.3%増）とやや増加すると予想される。一方で輸出量は、世界的な経済回復により韓国、インドネシアおよび日本などの砂糖消費需要によってけん引されることが予想され、砂糖の増産を背景に、340万トン（同10.6%増）とかなりの程度の増加が見込まれる。

5月末に豪英自由貿易協定が発効

5月9日付け現地報道によると、5月31日に発効される豪英自由貿易協定（豪英FTA）に向け、

豪州産砂糖貿易拡大への期待が示された。本FTAでは、豪州産砂糖に対し8万トンの関税割当（無税）が設定され、8年目に22万トンにまで引き上げられた後に、関税が撤廃される予定となっている。

かつて英国は豪州にとって最大の輸出国であったものの、70年代初頭の英国の欧州連合への加盟を機に輸出は途絶え、豪州は東南アジアに輸出の軸足を移してきた。このような中、クイーンズランド州のサトウキビ生産者団体であるCANEGROWERSの最高経営責任者は、70年代以降、英国市場に意味のある参入が可能となったのは初めてのことで、現在、砂糖の国際価格が30年、40年来の高値で推移する中、このタイミングでの発効は、豪州砂糖業

界にとっては大変有益なものであると述べている。

現在、豪州では砂糖生産量の8割が輸出され、韓国、インドネシアおよび日本などを主要輸出先としているが、約半世紀ぶりに英国市場への有効な参入機会を手にした豪州砂糖生産者はこの度の発効を歓迎しており、今後、同国の砂糖生産や輸出への影響が注目される。本FTAでは、砂糖のほかに牛肉、羊肉、乳製品などの畜産物に対する関税も撤廃され、2年後には、豪州から英国への輸出品目の99%（約92億豪ドル相当：8370億円^{（注）}）が無関税となる。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の4月末TTS相場（1豪ドル＝90.98円）を使用。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 (4月予測)	2023/24 (5月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	354	342	342	341	348	1.7%
サトウキビ生産量	31,074	30,123	32,589	30,816	31,446	▲ 3.5%
砂糖	生産量	4,385	4,108	4,176	4,405	4.3%
	輸入量	10	9	14	14	▲ 12.5%
	消費量	1,010	1,010	1,010	1,010	0.1%
	輸出量	3,377	3,513	3,077	3,184	10.6%
	期末在庫量	789	383	536	525	1.0%
	期末在庫率	18.0	8.5	13.1	12.5	0.9ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2023」

注1：2021/22年度および2022/23年度の数値は推定値、2023/24年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：162万ha（前年度比6.0%増）

生産量：9388万トン（同3.0%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：1159万トン（同7.8%増）

輸出量：834万トン（同3.3%増）

2022/23年度の砂糖生産量は前年度比増、 輸出量も800万トン前半と増加の見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、競合するキャッサバの生産に転換した農家の回帰などから、162万ヘクタール（前年度比

6.0%増）とかなりの程度増加すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、東北地域の低地帯で洪水が発生したものの、洪水被害に見舞われなかった他の地域で収量が増加し、9388万トン（同3.0%増）と依然として高水準となることが予想される。

砂糖生産量は、今期のサトウキビ生産量が1億トンを超える見通しから下回り、また、製糖業者も操業を早く終えたことから、前回予測から下方修正されたものの、1159万トン（同7.8%増）とかなりの程度増加し、21/22年度に引き続き1000万トン

超えが見込まれる。輸出量は、砂糖の減産や国内消費の増加を背景に834万トン（同3.3%増）と、前回予測から下方修正されたものの、依然として倍増した前年度を上回ることが見込まれる。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

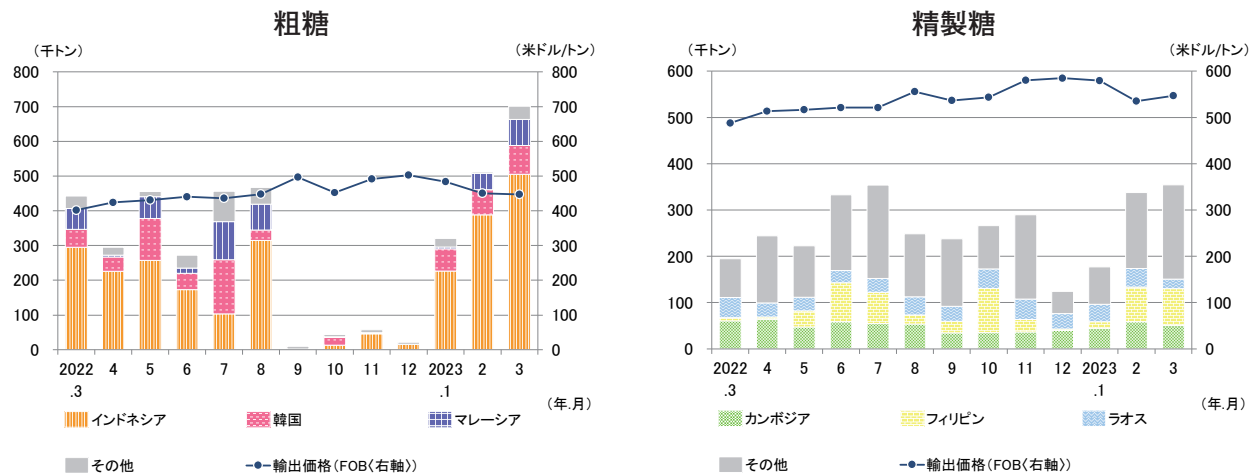
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (4月予測)	2022/23 (5月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,714	1,485	1,525	1,671	1,617	6.0%
サトウキビ生産量	74,893	66,659	91,145	94,300	93,884	3.0%
砂糖	生産量	8,801	7,981	10,749	11,644	7.8%
	輸入量	66	111	149	100	▲ 33.1%
	消費量	3,773	3,592	3,424	3,294	▲ 2.2%
	輸出量	8,461	3,981	8,069	8,444	3.3%
	期末在庫量	4,532	5,051	4,457	4,512	0.1%
	期末在庫率	37.0	66.7	38.8	38.4	0.6ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2023」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。